

「新聞を活用したメディアリテラシー」～複数の新聞記事を比較して～

指定校 1 年次 上田市立第三中学校 長尾恭照

(1) 本年度の NIE 活動の概要

本年度、私が勤務する上田市立第三中学校は、NIE 研究指定校に選ばれた。本年度より 2 年間、NIE の研究と実践に取り組むことになる。本年度は 1 年目にあたる。

これまで、私が行う社会科の授業の中で新聞を資料として使うことは度々あった。しかし、授業の導入の場面で主に第 1 面の見出し、写真、リード文を私が提示して、出来事の概要をつかませるのみで、追究の資料として使うことはなかった。字数が多く、文中に出てくる用語が難解なものもあり、内容を十分に理解するのが難しいのではないかと感じていたからであった。しかし、本年度、NIE 研究指定校に選ばれたことを機に、新聞を社会科の授業にどのように生かせるのかを研究しようと考えた。

私自身は、教育に新聞を生かすことで得られる効果を、①幅広い知識を得られる②信頼性の高い情報が得られる③現在進行形の情報に触れられる④読解力や判断力を高められる、の 4 点であると考え、より正確性の高い情報を読み解くメディアリテラシーの育成をテーマに据えた。

(2) 本年度の NIE 活動を始める前の状況

上田市立第三中学校は、全校生徒 350 名、学級数 10 の学校である。

NIE 活動を始める前は、生徒たちは図書館で新聞を読む以外は、学校で新聞に触れる機会はほぼなかった。本年度 NIE の公開授業を行った 3 年 3 組（在籍 33 名）での新聞購読者数は 13 名。生徒の半数以上はテレビも見ず、ニュースはスマホで見る生徒が多かった。

各教科の授業で新聞を扱うことはほとんどなく、月曜日朝の JIGAKU（朝学習）の時間に、信濃毎日新聞から配信される学習シートを、ほぼ 2 か月に 1 度のペースで、全校で取り組むのみであった。

(3) NIE 活動のねらい

私は、生徒たちに新聞に親しみ、少しずつでも読むようになってほしいと願っていた。新聞を読むことには、次のような効果があると考えていたからである。

- ・自分の知りたい情報以外の未知の情報や、掘り下げた情報など、幅広い知識を得られる
- ・記者やデスクの目を通った、信頼性の高い情報が得られる
- ・世の中で、その瞬間に起こっている、現在進行形の情報に触れられる
- ・たくさんの文字を読み、内容を理解しようとすることで、読解力や判断力を高められる
- ・授業で学習した内容がそのまま新聞に出てくることが多い（特に公民）

従って、公開授業への取り組みを通して、生徒たちに次のような力をつけてほしいと願っていた。

- ・新聞を進んで読むようになってほしい
- ・新聞から、正確な情報を読み解く力をつけてほしい

- ・複数の新聞記事を読み比べることで、手元にある情報が本当に正しい情報なのかを吟味する力をつけてほしい

まず、多くの生徒たちに気軽に新聞にふれてもらい、少しずつ新聞を読む力を高めていってほしいと考え、次の様々な活動を企画・運営した

(4) 公開授業以外を含めた NIE の取り組み

新聞を授業に取り入れるためには、まず生徒に新聞を読んでもらわなければならない、新聞に親しんでもらわなければならない、と考えた。そこで、次の3つのことを行った。

- ① 新聞閲覧台の設置
- ② 新聞のスクラップブックの制作
- ③ 授業冒頭での新聞記事の活用

以下、詳細を述べる。

① 新聞閲覧台の設置

3年生の社会科・公民でNIEの授業を行う予定だったため、3学年の廊下に閲覧台を設置した。木製の閲覧台1台に1紙、長机にその他の新聞を設置した。

全紙に目を通す生徒はほとんど見られなかったが、新聞を読む生徒の中で、信濃毎日新聞は比較的多くの生徒が読んでいた。特に、高校野球で甲子園に出場した上田西高校野球部のニュースや、WBC（ワールドベースボールクラシック）で活躍した横浜 DeNA ベイスターズの牧秀悟選手（長野県中野市出身）の記事は、多くの生徒が見て話題にしていた。



② 新聞のスクラップブックの制作

授業を行った3年3組では、自由課題としてスクラップブックの制作に取り組んだ。自由課題としたのは、家庭で新聞を購読している生徒が少なかったこと、学校に届く新聞の部数が限られていたためである。スクラップブックには、信濃毎日新聞のスクラップブックを使用した。スクラップを制作したら、授業の際に提出するようにし、提出した生徒にはその日のうちにコメントを入れて返却した。また、折に触れてスクラップの好例を生徒に紹介した。

継続して提出し続けたのは3～4名と少数であったが、各種スポーツで成果を上げたスポーツ選手の結果や特集、興味を抱いた地域の出来事、社会科の授業で学んだ内容が載っているものについての記事を選んで、スクラップを制作していた。そのコメントは、既習事項を交えたものや、生徒自身が感動したもの、勉強になったと感じたものであった。その内容は既習事項をきちんと理解したうえで書かれたものであった。



③ 授業冒頭での新聞記事の活用

日々の新聞の中で、既習事項に関連した記事や、私が興味をもった記事を授業冒頭で紹介したり、記事を配付して思ったことや感じたことを記入したりする活動を折に触れて行ってきた。新聞を日常的に読んでいる生徒はもちろん、普段ほとんど新聞を手にとることのない生徒にも

新聞に触れてもらい、新聞を読むことに慣れるとともに、新聞を読むことの楽しさを知ってほしいと思ったからである。以下は実践例である。

【『過激動画で再生数稼ぐ』読売新聞 2023年9月18日付朝刊「公共の福祉」の学習で紹介】

- ・最初は発信している方も見ている方も、面白いと思い、非常識な行為をして生活していたが、やり続けると自分は得しないんだな、と思った。何事もほどほどにするのが一番だ。(M生)
- ・人に評価されなかったり、収入を上げたいからといって、不適切だったり、誤ったことをSNSで発信するのは自分勝手だと思った。(中略) 正しく利用しないといけないと感じた。(Y生)
- ・炎上系の動画が伸びるからと規約に違反するような動画を投稿してしまうほど、インターネットでお金を稼ぐのは簡単で危ないことだと思った。(K生)
- ・お金欲しさに過激な動画を撮る人が結構いそうだなと思った。「相手の気持ちが気にならない」という発言にびっくりした。(R生)

記事で取り上げられているユーチューバーの名前は、多くの生徒が耳にしたことのある人物であった。そのため、授業終了後もこの記事について会話をする生徒がたくさんいた。

受け取る側の事情や気持ちを考えずに表現することが良くない行為であることを、全員の生徒が事前に理解していたが、今回の記事を通して、より具体的で身に迫るものとして感じている姿が見受けられた。

(5) 公開授業などの活動内容

① 単元名 現代の民主政治と社会 第1節 現代の民主政治「マスメディアと政治」

② 単元設定の理由

昨今のSNSの発達により、マスメディアからの情報を吟味して批判的に読み解くメディアリテラシーが必要であること、複数の新聞記事を読み比べ、受け止める印象を比較し、なぜそのような違いが生まれるのかを話し合う中で、生徒のメディアリテラシーを高めようと考えた。

③ 授業学級 3年3組

④ 本時で扱う記事に寄せた教師の願い

世論形成のためにマスメディアが果たしている役割について理解を深め、同一のテーマに対する2社の新聞記事を読み比べて、どのような違いがあるのか、なぜそのような違いが生まれるのかを考え、意見交換をし、考えを深める、という活動を構想した。扱った記事は、2023年8月15日付の産経新聞1面に掲載された「首相は核抑止の重要性語れ」という論説文と、同日付の信濃毎日新聞論説記事「戦争の正体を見極めねば」である。

産経新聞の記事の主旨は「ロシアがウクライナに『核の威嚇』をちらつかせ、中国と連携を深める現在、日本は核抑止力を持ち、中口の脅威に対抗すべきだ」というものである。

信濃毎日新聞論説記事の主旨は「平和には核兵器が必要という核抑止論に依拠すれば、軍拡は果てがない。戦争とは何かをもう一度きちんと認識すべきだ」というものである。二つの記事を読み比べることで、生徒は以下のことに気づくことができるのではないと考えた。

- ・新聞社によって、同じテーマでも主張や情報の扱い方に違いがあることに気づく
- ・新聞社は、読者が自社の論調を支持することをねらい記事を書いていることに気づく

- ・広い視野をもって世の中の情報を正確に読み解くためには、複数の記事を読み比べて『これは正しい記事なのか』『他の視点からはどのような記事が書かれているか』『より正確な情報は何か』ということを考え、情報を批判的に読み解くメディアリテラシーの大切さに気付く

新聞各社の意見の相違が比較的分かりやすく、生徒がメディアリテラシーを身に着けるうえで記事の比較がしやすいことから、今回の記事を採用した。

⑤ 単元計画

時間	学習問題	学習活動	指導上の留意点
1	民主政治とはどのような考え方なのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・政治とは何かを理解する。 ・国民主権と基本的人権の尊重が民主主義に繋がっていることを理解する。 ・直接民主制と議会制民主主義があることを理解する。 ・多数決の原理が採用されていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多数決について、アイドルグループのファン投票（教科書 P.79）をもとに、よりよい多数決について意見交換する活動を設定する。
1	選挙の大切さは何か？ どのような制度で行われているのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・日本では普通選挙の原則に貫かれた選挙が行われていることを理解する。 ・選挙シミュレーションを通して、小選挙区比例代表並立制のしくみを理解する。また、どのような意図で行われているかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような歴史を経て普通選挙の原則が採用されているかをおさえる。 ・有権者の意思が反映されるしくみであることを伝える。
1	政党の役割は何か？ 政党政治にはどのような良さがあるのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・政党の働きを理解する。 ・政党政治はどのように行われるのか、そのよさとは何かを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各党の政権公約から、各党の訴えはどのような内容か、現在の日本の課題は何かを考える活動を設定する。
1	マスメディアは政治にどのような影響を与えているのか？ (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・有権者が投票する候補者や政党を決めるとき、何を情報源としたかを資料から読み取る。 ・情報源となるマスメディアからの情報は、取り上げる側面によって書き方が変わり、人々の受け止め方も変わること、新聞記事の読み取りを通して理解する。 ・各紙の書き方の違いがなぜ生まれるのかを、個人追究とグループ追究で考え、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月15日付（終戦の日）2紙の記事を配付する。 ・平和を守ることの大切さを2紙とも訴えているが、そのための方策が大きく異なっていることを読み取る活動を設定する。 ・書き方の違いがなぜ生まれるのかを問い、考えさせる。
1	私たちはどのように政治に関わればよいか？	<ul style="list-style-type: none"> ・若者（10～20代）の投票率が低いことを資料から読み取る。 ・若者がどのような理由で投票に行かないかを資料から読み取る。 ・若者の投票率を上げるにはどうすればよいか、選挙以外に政治参加の方法にはどのようなものがあるのかを、資料を基に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から、若者の投票率が低いことと、その理由を読み取らせる。 ・他国では投票率を上げるためにどのような方策を採っているのかを紹介し、対策を考える活動を設定する。

⑥ 本時の位置 全5時間中第4時

⑦ 本時の主眼

民主政治や選挙のしくみ、政党の役割について学んだ生徒たちが、世論の形成にマスメディアが大きく影響していることを理解するとともに、メディアリテラシーを身に付ける活動を行うことを通して、マスメディアが政治にどのような影響を与えるかを理解することができる。

⑧ 指導上の留意点

- ・文字の多い記事なので、読むことに抵抗を感じる生徒もいる。アンダーラインを引いたりマーカーを引いたりするなどの作業をしながら読み取るように指示する。
- ・話し合いの際、なかなか話し合いに参加できない生徒には、教師が進んで声をかけ、話し合いに参加できるように促す。

⑨ 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	時	・指導 ◇評価
導入	1 同日の新聞記事第一面を読み比べ、同じニュースでも扱う大きさが違うことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ日の新聞で、扱っているニュースも同じなのに、大きさが違うね。 ・扱う順番も違っている。 ・なぜだろう。 ・重視しているニュースが違うのではないかな。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の新聞記事を提示し、第1面を比較するように指示する。 ・どんな違いがあるのかを読み取らせる。
	学習問題：マスメディアは、政治にどんな影響を与えているのだろうか。			
展開	2 マスメディアが世論の形成に役立っていることを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に共有されている意見を世論と言うんだ。 ・多くの人がテレビや新聞から情報を得るから、マスメディアは世論を作る上で重要な役割を果たしている。 ・マスメディアの情報は正確性が求められるけど、本当に正確なのだろうか。 	30	<ul style="list-style-type: none"> ・政治家は世論を参考に政治を行い、世論はマスメディアからの情報によって作られることを教科書から確認する。 ・資料②「選挙の時に役立った情報源」(教科書84ページ)
	学習課題：2つの新聞記事を読み、なぜ違いが生まれるのかを考えよう。			
	3 新聞記事を読み比べ、どんな違いがあるのか、なぜそのような違いが生まれるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・記事の事実の部分は似ている部分があるけれど、主張はだいぶ違うね。 ・片方の記事は、日本の平和を守るために核抑止力を含めた防衛力の強化を求めているけれど、もう片方は外交での対話と国際社会の団結を求めている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・8月15日付の新聞を配付する。一つは産経新聞第一面の論説文、もう一つは信濃毎日新聞の論説記事。 ・どのような印象か、なぜそのような違いが生まれるのかを考え、学習カードに書くように指示する。
	4 調べたり考えたりしたことをグループで共有し、意見交換をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ日の新聞で、このように主張が違うのはなぜだろう。 ・新聞社が自分たちの考えを持っていて、その主張を読者に広めようとしているのではないか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・より説得力のある考えをグループでまとめる。 ・全体で共有し、なぜ記事の書き方の違いが生まれるのかを考えるよう促す。
	5 全体で意見交換をし、マスメディアから情報を受け取る際	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちがマスメディアから情報を受け取る時に、どんなことに気をつけるべきだ 		◇記事から受けた印象や書き方の違いが生まれる理由を自分なりに考え、カードに

	に気をつけるべきことを考える。	ろう。 ・複数のメディアから情報を受け取ること。 ・本当に正しい情報かどうか、情報の背後にはどんな意図があるのかを考えながら受け取るといいかもしれないね。	記入できたか ◇グループ内や全体共有の場で意見を発表したり聞いたりしながら、自分の考えを深められたか。 (カード、発言)
終末	6 学習問題に対する答えをまとめる。	・政治家は世論を参考に政治を行い、世論はマスメディアによって作られる。だから、マスメディアからの情報を吟味し、批判的にとらえるメディアリテラシーが大切だね。	

⑩ 生徒の反応

下記は授業を終えた後の生徒の学習カードの記述である。生徒たちは信濃毎日新聞と産経新聞の主張の違いを読み取ることが概ねできていた。

「信濃毎日新聞は誰かの実体験を聞いているみたい。産経新聞は政治に対しての意見」
「信濃毎日新聞は、政府に、というよりは、新聞を読んでいる国民に対して、核の危険さを訴えている感じがした。産経新聞は、政府に対して『核兵器のない世界は核抑止論ではつくれない』と訴えていた」

また、「なぜ、このような違いが生まれるのだと思いますか」という問いに対しては、

「みんな同じ考えではないから」
「書く人が同じではないし、どちらかにかたよってしまうといけないから」

という答えが多かった。まとめでは、

「いろんな人がいろんな意見を持っている。それを様々な角度から読み取る力が必要」
「マスメディアはそれぞれに様々な意見が書かれていて、それをそのまま信じるのではなく、批判的立場に身をおき、読み取るメディアリテラシーが必要である」

このような記述があった。学習カードの記述を見る限りは、生徒たちはメディアリテラシーの大切さを理解できたのではないかと感じた。

(6) 1年間取り組んだ成果と課題

公開授業後の授業研究会では次のような意見が出された。

- ・本単元は政治分野なので、最終的には主権者教育につながる。選挙についての記事を扱った方がよいのではないか。従って、戦争についての記事は、別の所で扱えばよかったのではないか。記事全体ではなく、見出し、リード文、写真を読み取らせるとよいのではないか。
- ・生徒に新聞の面白さを知ってもらいたいし、資料として使ってもらいたい。この授業だけではなくて、単元で力をつけてほしい。そして、「新聞の日常化」を続けてもらいたい。

本年度は授業学級で少しずつ「新聞の日常化」を進め、新聞を通して身近な地域から世界全体で起きている出来事に関心を寄せ、ものの見方や考え方を広めるとともに、文章読解力やメディアリテラシーも高められることが分かった。来年度は授業学級以外にも取り組みを広げるとともに、取材や記事の作成まで含めた、より幅広いNIE活動を進めたい。